

図画工作科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 新しい用具でも反復練習をすることで、目的に応じて用具を活用しながら、工夫して表すことができた。
- 自分の目標をもち、見たり感じたりしたことを活かしながら、楽しんで作品作りに取り組むことができた。

(2) 課題

- 絵の具などの混色や重色のつくり方について、苦手な児童が多くいるため、授業の中で継続的に取り上げる必要があること。
- 表現の幅を広げられるように、今までに習得した技法を目的に合わせて活用すること。

2 観点ごとの実態

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・入学までの生活経験の差があり、はさみの使い方など技能の個人差が大きい。 ・自分の感覚や行為を通して、色や形などに着目しながら表現することができる児童が多くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵の具の使い方が身に付いていない児童が一定数いる。 ・材料などを様々な視点でとらえて、創造的に作ったり表したりすることが得意な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・金槌などの工具を初めて扱う児童が多い。 ・手先の器用さに個人差が大きくなる ・絵の具の使い方が身に付いていない児童が一部いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表したいことに合わせた材料を選んで、工夫して表現することができる児童が多い。 ・材料に合った用具を自分で選んで使うことが苦手な児童も一部いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表したいことに合わせた材料を選んで、工夫して表現することができる児童が多い。 ・表し方を工夫できない児童も一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・細かい作業が得意な児童が多い。 ・一方で、材料や用具をうまく活用できない児童や表し方を工夫できない児童も多い。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の発想で思いのままに取り組んでいる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に発想することのできる児童が多い。 ・友達の作品から見つけた良さを、自分の作品に活かせることも多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発想したものに合う材料や表現方法を自分なりに考えている。 ・友達の作品の良さを見つけ、表し方を広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料や仕組みなどから、表したいことを思いついて活動できている児童が多い。 ・友達の作品の良さを感じ取り、自分の作品に取り入れようとしていることも多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に作りたいものや表現方法を考えることができる児童が多い。 ・表現したいもののイメージを明確にもてない児童が一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたことや材料を基に、自分なりに表現したい形や色などを思いついて活動している児童がいる ・表したいものが思いつかない児童も多い。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・作りだす喜びを味わい、楽しく学習活動を行っている。 ・色や形に着目して、友達の作品を楽しく見ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現したり、友達の作品を鑑賞したりする活動に、楽しんで取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで表現したり、作りだす喜びを味わったりしている。 ・友達の作品を鑑賞し、良いところを積極的に見つけようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作りだす喜びを味わいながら、活動に積極的に取り組む児童が多い。 ・粘り強く活動に取り組むことが難しい児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に活動に取り組む児童が多い。 ・集中力が続かず粘り強く取り組めない児童が一部いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・粘り強く取り組む児童と、集中力が続かず意欲的に取り組めない児童との間の個人差が大きい。

3 課題と授業の改善策

		1年	2年	3年	4年	5年	6年
課題	知識・技能	・はさみやクレヨンを上手に使うこと。	・絵の具の扱いに慣れていないこと。	・細かい作業や絵の具を上手に扱うこと。	・表したいものに合った材料や用具を選ぶこと。	・材料や用具をうまく活用できないこと。	・用具の正しい扱い方を理解して、活動すること。
	思考・判断・表現	・何を描いたら良いか想像を膨らませること。	・自分の作りたいものを作品に表現すること。	・作りたい物を細部まで考えること。	・自分の想像したことを様々な手法を使って作品に表現すること。	・造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方について考えること。	・創造的に発想や構想をしたり、親しみのある作品などから自分の見方や考え方を深めたりすること。
	主体的に学習に取り組む態度	・学習の準備に時間がかかり、制作に取り掛かるまでに時間がかかること。	・色や形に着目して鑑賞をすること。	・細部までこだわって粘り強く課題に取り組めないこと。	・粘り強く活動に取り組み、作品を作り込むこと。	・集中して粘り強く活動に取り組み、作品を作り込むこと。	・苦手意識があり、意欲的に活動に取り組むことが難しいこと。
授業の改善策	知識・技能	・用具の使い方をはじめに確認し、正しく使えているか繰り返し振り返り、定着を図る。	・絵の具を扱う題材を設定し、使い方を振り返り、正しく扱えるようにする。	・細かい作業を取り入れた題材を取り入れて、作業に慣れるようにする。 ・絵の具を扱う題材を設定し、使い方を振り返り、安心して正しく扱えるようにする。	・今までに使用したことのある材料の特徴をその都度復習して、自分が表したいものに合った材料を選べるようにする。	・表したいものに合わせて、材料や用具を選べるように、それぞれの特性を復習したり、使い方を直接見せたりする。	・題材毎に使う道具の確認をして、安心して道具を使えるようにする。
	思考・判断・表現	・身近なことや、想像しやすいテーマを設定し、本や資料などをいつでも見られるようにして、考えを広げられるようにする。	・工夫して表現できている児童の作品を紹介して、表現方法を考えられるようにする。	・作りたいものが決まったら、どのような表現や工夫をするのかまで細かく声掛けをして、様々な方法を提案して、いろいろな選択肢から選べるようにする。	・例や見本、資料などを用意し、友達の真似ではなく、自分で考えた作品ができるようにする。	・自分がよいと思うものや美しいと思うもの、表したいと思うものを考える時間を多めに設定し、想像や発想がしやすいようにする。	・自分がよいと思うものや美しいと思うものを考える時間を多めに設定し、想像や発想がしやすいようにする。
	主体的に学習に取り組む態度	・準備や片づけなどを短く行えるように、指示を簡潔に出し、一度に行うことを少なくする。	・その題材に合わせた見方ができるよう、どこに着目して見れば良いかあらかじめ伝えたり、鑑賞中に声掛けをしたりする。	・自分の思いを形や色に表せるよう、作品の工夫した点を相談しながら見付ける。	・意欲が高まるよう、その都度よくできているところを見付けて声掛けしたり、作品の工夫した点を一緒に考えたりする。	・自分で納得のいく作品が作れるように、作品の工夫した点を話し合いながら見付ける。	・意欲が高まるよう、考えたことやデザインしたものの良いところを見付けて、声を掛ける。